



国立国会図書館が所蔵する膨大な蔵書の一部は、国会図書館デジタルコレクションで公開されています。これらは自宅のパソコンからアクセスして閲覧可能ですが、非常に便利です。他に国会図書館の館内での閲覧に制限されているもの、福岡県立図書館など提携する図書館内でのパソコンによる閲覧に制限されているものがあります。

が困難なものを、インターネットを通じてご自身の端末(パソコン、タブレット)などでご覧いただけます。それが「個人向けデジタル化資料送信サービス」で、利用できるのはデジタル化された311万点のうち、約152万点という膨大な数です。

「第一八 海軍軍人軍属官解別」は軍人が将官及総監・上長官・士官・候補生・准士官・下士、俸給年額・卒に区分され、軍属が勲任・奏任・判任・俸給年額、事務備、技術備、教員備(人員・月俸)に区分されています。佐世保鎮守府の新原探炭所について空欄を除いて引用します。(軍人)士官一、俸給年額

◆第五十四 海軍所属炭山 明治二十五年度分

地名	箇所数	鉱区坪数	一年度間採掘高
筑前国糟屋郡須恵村外三ヶ村	三鉱区	一、七九一、七四九	三三、九一二、五七一
同国鞍手郡勝野村外二ヶ村	一鉱区	五〇〇、五〇七	—
同国嘉麻郡稲築村外一ヶ村	一鉱区	三九六、四八九	—

第五十五 海軍省所属建物

類別	木造		建築費
	二階坪数	平家坪数	
新原探炭所			
役所		五七坪 三二〇	一、〇〇〇円八〇八
倉庫	一八坪〇〇〇	一八 〇〇〇	三九八 五二〇
工場		一一三 二五〇	二、七四四 一〇九
諸建物		七四 五〇〇	五九二 九二二
計	一八坪〇〇〇	二六三 〇七〇	四、七三六 三六〇

八七六円(軍属)判任三、俸給年額一、二〇〇円、事務備など人員一三、月俸九八円。全員で一七人ですからまだ小規模な事務所といったところですね。

「第五十五 海軍省所属建物」は「類別/木造(二階坪数、平家坪数)/土蔵造(二階坪数、平家坪数)/煉瓦(煉瓦のこと)造、石造(二階坪数、平家坪数)/鉄道(二階坪数、平家坪数)/建築費」の項目がありますが、新原探炭所は木造と建築費以外は空欄なので、空欄を除いて引用しています。建築費二、〇〇〇円八〇八は二、〇〇〇円八〇銭八厘の意味です。

第五十六 海軍省所管用地坪数及地価

〔所轄 佐世保鎮守府/庁府県 福岡県〕に新原探炭所を含む三ヶ所を挙げています。石炭庫地は採掘した石炭を船に積み込むための貯炭場です。千代村の貯炭場は後に九州帝国大学医科大学(現・九州大学医学部)の敷地に含まれることとなります。

地名	所用名	坪数	見積地価
糟屋郡須恵村	新原探炭所	九、五五一坪四四五	五二六円〇二五
福岡市博多大浜町	石炭庫地	六八三 〇〇〇	六八 三九七
那珂郡千代村	同	一、二五四 〇〇〇	一二〇 〇〇五

●農務局、工務局編『府県陶器沿革陶工伝誌』明治19年(1886年) 緒言によると「本年以上野公園内に開設せらるゝ繭糸織物陶器共進会の出品中、陶器の如き全国の製陶場を網羅するもの

●河野通章『日本商業地理 増訂2版』明治24年(1891年) 石炭坑は油戸、唐津、新原等に属するものにして、百三十七万二千余貫を出産し、専ら二見港より相川町に輸送し、本鉱に於ける金銀の淘汰・製煉等に使用するものなり。唐津炭坑は肥前松浦郡唐津に在る海軍石炭用所に

●赤塚宗輔編『石黒況齋編』好求録 茶器鑑定秘伝抄』明治16年(1883年) 須恵焼のほか、筑前では鞍手郡・早良郡の高取焼、那珂郡の瓦町焼、野間焼も取り上げています。舜山は沢田舜山のこと。

●第三回内国勸業博覧会褒賞授与人名録』明治23年(1890年) 『第三回内国勸業博覧会受賞者人名録』(明治23年)にも同内容の記事がありました。

●第六部 礦業及冶金術 三等有功賞に継ぐ「褒状」の中に、石炭(須恵村大字旅石) 同県同市博多中对馬小路 八尋佐平・同県糟屋郡須恵村 印藤勘右衛門

にして、二千三百九十七万五千余貫を出産す。新原炭坑は唐津炭坑と同じく海軍の探炭所にして筑前糟屋郡須恵村新原に在り。陶磁器を製造する最も著名なる地は佐賀、岐阜、愛知、石川、京都の四府四県にして(略)福岡県は早良郡鹿原、糟屋郡須恵(略)を製造地とす。

◆告示 農商務省告示第一号 福岡県筑前国糟屋郡須恵村大字旅石海軍予備炭田の内、左の実測図中、甲乙丙合計三万七千三百九十八坪四合五勺、自今試掘・借区共出願差許す。 明治二十四年一月十九日 農商務大臣 陸奥宗光



(図面) 福岡県筑前国糟屋郡(須恵村大字旅石小字橋本・仏浦/志免村大字志免小字仲尾・仏浦) 実測図(尺度本形三千分の一/但二間三厘) 解放地 合計三万七千三百九十八坪四合五勺 (甲 二万九千八百四十九坪三合/乙 六千四百七十八坪一合五勺/丙 一千零七十一坪) 実測図の右下隅部分(旅石の橋本・仏浦) 山林・田・秣地などと書かれています。ケバ図という表現のしかたで地形の起伏をあらわしています。



官報(号外) 図面は上が志免、下が旅石。